

科目番号	52133	分類	助産診断技術学	履修者	高度実践助産コース	学年			
科目名	実践助産学演習 (Exercise of Practical Midwifery)					1～2			
						配当セクター			
						通年			
担当者	○小嶋 奈都子 他5名		区分	助産師プログラム	必修	単位	1	時間数	30
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連			
【概要目標】 Women's Centered Care および Family Centered Care の視点から「肯定的な出産体験」のための発展的・応用的な知識と技術について学習し、実践力の強化を図る。助産ケアに関する課題や問題について、考察し、自分の考えを述べることができる。 【目標】 1. Women's Centered Care および Family Centered Care の概念を理解できる。 2. 「肯定的な出産体験」に向けた助産ケアを提供するうえで役立つ、発展的助産ケアの基本的知識と技術を理解できる。 3. 学習した助産ケアを今後の助産実践にどのように活用できるかを考察し、自らの考えを述べることができる。						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力		
						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力		
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力		
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力		
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力		
							6.研究・開発能力		
						○	7.倫理的意思決定能力		
授 業									
回	内 容							担当教員	
第1回	ガイダンスーWomen's Centered Care と Family Centered Care							小嶋 他5名	
第2回	会陰切開・裂傷縫合の基本的知識								
第3・4回	会陰切開・裂傷縫合の基本的技術（演習）								
第5・6回	フリースタイル分娩の実際（演習）								
第7・8回	助産ケアに活かす分娩体位と補助動作								
第9・10回	助産ケアに活かすリラクゼーションの基礎と演習								
第11・12・13回	助産ケアに活かす産前産後の身体活動の基礎と演習								
第14・15回	助産ケアに活かす妊産褥婦の家族へのケアの基礎と実際 まとめー学習したことを実践に活かすために（発表・ディスカッション）								
事前・事後学習	事前学習：テーマに関連した文献を収集し、討論のための基礎的知識について予習すること。 事後学習：技術については各自自己練習を行うこと。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み合わせること。								
評価の方法	レポート評価 60％ 実技演習における観察評価 20％ 参加学習状況 20％								
参考図書・資料等	参考図書は適宜紹介する。								
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 フィードバックは適宜行う。 ＊講義内容の順番については変更あり								